

札幌市立
手稲西中学校
学校だより
第13号



令和8 (2026) 年
3月16日
発行
無断転載を禁ず

卒業おめでとうございます (卒業式式辞 抜粋)

校長 塚本 慈彦

ただ今、一人一人に手渡した卒業証書。その重みは、皆さんがこの3年間、一日一日を積み重ねてきた努力の証です。あらためて、卒業おめでとうございます。(中略)

私が皆さんに伝えたいのは、これから始まる新しい生活の中で、皆さんも「もう十分頑張った、これ以上できないかもしれない」という壁にぶつかる時が来るかも知れません。そんな時、本校で過ごした日々を思い出してほしいのです。皆さんは、この手稲西中学校で、他の学校では決して味わえない特別な経験を積み重ねてきました。広々としたグラウンドで行ったスポーツフェスティバル、元オリンピック選手による情熱あふれる講演。コンサドーレの選手や、柔道、ダンスの専門家から直接手ほどきを受けた授業。地域へ飛び出し、施設や北大を見学したり、職業体験で社会の風を感じたりもしました。そして、DJの森本さんと共につくり上げたラジオ放送。これらは、決して「当たり前」のことではありません。この学校だからこそ、そして地域の皆さんの支えがあったからこそ実現した、唯一無二の経験です。ここで得た感動や思い出、そして何より「本物に触れ、自ら動いた」という自信は、新しい環境へ踏み出し、困難を乗り越えるための大きな力となってくれるはずです。(中略)

卒業生の皆さん。先程皆さんが歌った最後の校歌、感慨深く聴いていました。歌詞にある「知識を求め、たしかめる」「身体をきたえ、わざを練る」「心を深め、個性あれ」。この言葉は、この3年間で手稲西中学校の教職員一同が、君たちに込めた思いです。卒業生の皆さん。これから向かう新しい環境で、もし不安になることがあっても、忘れないでください。皆さんは一人ではありません。これまで関わってくれた地域の方々、先生方、そして何より、今日まで一番近くで見守り続けてくれた保護者の方々、ご家族の皆さんが、これからもずっと皆さんを応援しています。

手稲西中学校での学びと経験を誇りに、自信をもって、一歩ずつ自分の道を歩んでいってください。皆さんの未来が、手稲の春の陽光のように光り輝くものであることを心から願い、式辞といたします。



旅立ちの言葉 (卒業生代表の言葉)

〇〇 〇〇 さん

大雪に見舞われた冬も過ぎ去り、あたたかな春の日差しを感じられるようになりました。本日は私たちのために、このような素晴らしい卒業式を挙行していただき心より感謝申し上げます。こうして無事に今日を迎えられたのは支えてくださった皆様のおかげです。

振り返れば、この3年間には数えきれないほどの思い出が詰まっています。3年前の入学式。不安と期待を胸に校門をくぐりました。小学校のころとあまりメンバーは変わりませんでしたが、新たな環境にとっても緊張していたことを覚えています。しかし、クラスメイトとの何気ない会話や共に過ごす時間の中で、その緊張は少しずつ安心へと変わっていきました。それからの3年間、多くの人に支えられ、たくさんの思い出をつくることができました。

その中でも3年生として過ごした1年間は、私たちにとって最も濃く、かけがえのない時間でした。修学旅行では東北地方を訪ね、伝統文化や食の特色を体験しました。一番記憶に残っているのはミュージカル鑑賞後の踊り体験です。ソーラン節に現代的なアレンジが加わった「new ソーラン節」を、クラスごとに分かれてインストラクターの方に教えていただきながら練習しました。最初は難しい動きに苦戦していましたが、お互いに声を掛け合いながら動きを何度も確認しました。そして迎えた本番。全員の呼吸がぴたりと合い、最後のポーズを決めた瞬間に達成感と感動に包まれました。

その他にも、きりたんぽづくりやねぶた鑑賞などを通して東北の文化を肌で感じることができました。また、就職後のレクリエーションでは、クラス対抗で少し難易度の高いジェスチャーゲームを行いました。クラスみんなで協力しながらお題を当て、会場は大きな笑い声に包まれるほど盛り上がりました。最後の先生同士の対決では、「恋するカメラマン」というお題を和田先生も柴田先生も体や表情を全力で使って表現されており、大人の本気を感じました。この修学旅行は東北の文化を学ぶとともに仲間と過ごす時間の尊さを改めて感じる、大切な思い出となりました。



スポーツフェスティバルでは、今年度からハチマキが導入されたことで、各クラスにさらなる一体感が生まれていました。どの競技でも「優勝するぞ」という思いが伝わる試合が繰り広げられ、最後までどのクラスが優勝をつかむか分からないほど白熱しました。特に印象的だったのは、最後の玉入れです。前半の総合得点が、3年1組と2組で同率になり、この玉入れで優勝が決まるという状況に、緊張感が漂っていました。結果は1組が優勝をつかみ取り、クラス全員で喜びを分かち合いました。

この行事の中で、私にはもうひとつ嬉しかったことがあります。それは、全ての競技でクラスや学年に関係なく応援し合えたことです。勝ち負け以上に仲間と心をつなぐことや、お互いを尊重し合う大切さを学ぶことができ、西中の温かい雰囲気を感じて、「この学校の生徒でよかった」と心から実感しました。

在校生の皆さん。中学校3年間はあっという間に過ぎていく、かけがえのないものです。学年の垣根を越えて互いに尊重し合える西中の良さを引き継ぎ、さらに発展させてください。皆さんなら、きっと今よりもさらに素敵な西中をつくってくれと信じています。

これまで私たちを様々な場面で支え、時には厳しく、時には温かく導いてくださった先生方には感謝の気持ちで一杯です。3年間安心して学校生活を送り、多くの思い出を仲間と作ることができました。進路に悩み、不安で一杯だった受験の時期も、最後まで私たちに寄り添い、何度も励ましの言葉をかけて背中を押してくださいました。皆様の支えがあってこそ、自分で選んだ道を信じ、今日という日を迎えることができました。

そして、毎日私たちの健康を考え、一番近くで支えてくださった保護者の皆様。毎日学校に送り届けてくれたこと、優しくかけてくれた「いってらっしゃい」の一言、そのすべてが私たちの力になっていました。そのおかげで受験当日も万全の状態での臨むことができました。本当にありがとうございました。

これから、それぞれの進路に進み、新たな環境、新たな友人が私たちを待っています。しかし、この仲間と過ごした9年間の何気ない日々や、共に支え合い、高め合ってきた思い出は一生忘れることはありません。新たな環境で辛いことがあっても、みんなと過ごした日々を糧に乗り越えていこうと思います。最後に、手稲西中学校のさらなる発展と支えてくださった皆様への感謝を込め、答辞とさせていただきます。



送る言葉（在校生代表の言葉）

〇〇 〇〇 さん

雪解けが進み、日ごとに春の訪れを感じる季節となりました。今日、3月13日、手稲西中学校を卒業される3年生の皆さんは、いつも私たち2年生、1年生の先頭に立ち、学校を引っ張ってくださいました。そして行事のたびにを見せてくださった真剣な眼差しや、仲間と声をかけ合いながら最後までやり抜く姿は私たちにとって憧れであり、目標でした。

スポーツフェスティバルでは、自身の番以外でも目を離さず応援して高め合う姿は情熱的で、2年生や1年生をも巻き込んで、全員で声を出してスポーツフェスティバルを盛り上げることができました。競技で負けても仲間と励まし合い、前向きな言葉で支え合う姿がとて印象に残っています。

西中カルチャーフェスティバルでは「Adventure」というテーマをもとに、調べ発表部門、ステージ部門、装飾部門の三つに分かれて行われました。どの部門も3年生の良いところが色濃く出ていて、素晴らしい発表でした。西中らしさが出ている鮮やかな装飾や、劇を交えた勉強になる調べ発表。クオリティが高く、面白いステージ発表で3年生のすごさをさらに実感しました。特に印象に残っているのは準備期間から本番までの姿です。放課後に残り、練習を繰り返してより良いものをつくり出すその姿は、とても真剣で、最高学年としての誇りを感じました。

また、日常の何気ない時間も大切な思い出です。廊下ですれ違った時にかけてくださった挨拶や、生徒会活動などで意見がまとまらず悩んでいた時には、3年生の皆さんが経験をもとに具体的なアドバイスをしてくださいました。ただ答えを示すのではなく、私たちが考え、成長できるように見守ってくださったことがとても印象に残っています。行事の準備で忙しい中でも、困っている後輩に気付き、さりげなく声をかけてくれる優しさや、失敗して落ち込んでいる時には「大丈夫、次があるよ。」と励ましてくださった温かい言葉。その一つ一つがどれほど支えになっていたか言葉では伝えきれません。私たちが安心して学校生活を送ることができたのは、いつも背中中で示してくださった3年生の存在があったからなのだ、日々、強く実感しています。

3年生が見せてくださった団結力や、最後まで諦めずにやり抜く姿勢を、これからは私たち在校生が受け継いでいきます。これまで通り学年関係なく挨拶が自然と交わされ、互いの努力を認め合い、失敗を恐れずに挑戦できる、3年生のような温かさや活気にあふれた学校にしていきます。

今まで私たちを温かく見守ってくださったみなさんも、今日でこの手稲西中学校を卒業します。この3年間、楽しいことばかりではなかったと思います。思うようにいかず悩んだこともあったはずですが、それでも皆さんは仲間と支え合い、今日まで乗り越えてきました。これから先はそれぞれの新しい道へと進みます。進学や新たな挑戦など期待とともに不安もあることでしょう。しかし、今日まで支え合い、乗り越えてきた皆さんなら、きっとこれからも乗り越えていくことができます。どうか自分を信じ、胸を張って歩んでください。

これまで私たちを導き、支えてくださった3年生の皆さんに心から感謝申し上げます。みなさんと過ごした時間は私にとってかけがえのない宝物です。どうかこれからも自分らしく輝き続けてください。最後になりますが、皆さんの益々のご健康とご活躍をお祈りして、送る言葉とさせていただきます。

